

## 一般社団法人日本写真学会 第3回 定時社員総会

日 時：平成 26 年 5 月 27 日（火） 9:00～9:50

会 場：千葉大学 けやき会館 1F 大ホール  
千葉市稲毛区弥生町 1-33

### 【第1号議案】平成 25 年度事業報告

#### 1. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））

##### 1-1 学会誌の刊行に関する事項

- 1) 発行回数 6回 76巻2号～6号, 77巻1号
- 2) 総頁数 445頁
- 3) 特集
 

2013年日本写真学会年次大会講演要旨	(76巻2号)
2012年のカメラ	(76巻3号)
2012年の写真の進歩	(76巻3号)
フレキシブル・プリンテッドエレクトロニクスと 画像形成技術との接点	(76巻4号)
2013年日本写真学会秋季研究発表会講演要旨	(76巻5号)
光励起制御を目指した金属ナノ構造の構築	(76巻6号)
画像保存	(77巻1号)

##### 4) 主要掲載事項および件数

一般論文	8件	口 絵	6件
ノートおよびレター	0件	紹 介	10件
技術レポート	0件	報 告	0件
講 座	3件	書 評	1件
解 説	21件	会 報	6件
資 料	1件	その他（受賞者案内）	1件

- 5) 年次大会の講演要旨集を学会誌2号に、秋季研究発表会の講演要旨集を学会誌5号に含めて発行した。
- 6) 科学技術振興機構の電子アーカイブ J-STAGE に、発行後1年経過した論文・解説等の記事を掲載した。

##### 1-2 学術図書の刊行に関する事項

- 1) 「写真の事典」刊行のための出版委員会にて、編集作業を進めた。予定出版社 朝倉書店  
刊行予定 2014年夏

#### 2. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））

##### 2-1 研究発表会、講演会などの実施

- 1) 写真好きのための定期講演会  
第4回写真好きのための定期講演会（平成25年4月18日、キャンノン下丸子本社）  
テーマ「すばる望遠鏡の光学系」、「綴(TSUZURI)文化財未来継承プロジェクト」講演  
「キャンノンギャラリー」見学  
参加者；32名
- 2) 2013年度年次大会研究発表講演会（平成25年5月27～28日、千葉大学 けやき会館）  
特別講演会『写真が伝えるもの～現役写真家・報道写真を語る』として「東日本大震災で新聞は何を伝えたか？」池田正一（読売新聞）、「ペンは剣より強いかもしれんが、写真はペンより確実に強い」宮嶋茂樹（写真家）及び特別展示として：『八幡製鐵所で発見されたガラス写真乾板から再生された写真像』を行った。  
特別講演2件、受賞講演9件、一般講演計43件、インタラクティブ（ポスター）セッション18件、総報告件数72件、参加者数123名
- 3) 日本写真学会西部支部例会（平成25年6月13日、長岡京市生涯学習センター）  
テーマ「写真フィルム産業からの転換コンセプト」  
講演数1件、参加者数32名
- 4) 光機能性材料セミナー  
（平成25年6月17日富士フィルム(株)東京ミッドタウン本社）

テーマ「光励起制御を目指した金属ナノ構造の構築」

基調講演「プラズモニック化学—反応制御を目指して—」三澤弘明（北海道大学）

一般講演3件、事例紹介2件、参加者数：58名

- 5) PHOTONEXT2013 技術アカデミー  
（平成25年6月25日東京ビックサイト）  
テーマ「探せ育てよ次世代ビジネスの芽～セッションI：最新デジタルカメラの技術と表現力、セッションII：デジタルプリントと表現力」  
セッションI：セッション数3件、セッションII：セッション数4件  
参加者数94名（延べ）
- 6) 写真好きのための定期講演会  
第5回写真好きのための定期講演会（平成25年6月27日、日本カメラ文化財団・JCII フォトサロン・日本カメラ博物館）  
テーマ：「貴重写真と貴重図書の熟覧」白山真理氏講演、「日本カメラ博物館」見学  
参加者；21名
- 7) 西部支部例会見学会（平成25年9月20日、奈良文化財研究所）  
見学 参加者数18名
- 8) 写真好きのための定期講演会  
第6回写真好きのための定期講演会（平成25年10月24日、オリンパス株式会社技術開発センター石川）  
テーマ：「ミラーレス一眼カメラについて」松澤良紀氏講演、「オリンパス技術歴史館『瑞古洞』」見学。参加者；30名
- 9) 平成25年度画像保存セミナー（平成25年10月31日～11月1日、東京都写真美術館ホール）  
セミナーテーマ「画像保存セミナー開催30周年記念特別セミナー」  
\*日本写真学会の画像保存研究会は、次世代に伝えるべき記録と価値ある写真画像、またその他の画像記録物の確実な保存を目指し、その知識の普及と技術の確立を目的としております。その主旨に則し、広く情報を発信する場として、1984年より画像保存セミナーを開催し、今年で30回目を迎え、開催30周年を記念し、例年よりも時間を拡張した。九州国立博物館長の三輪嘉六氏とフランス国立コレクション保存研究センター所長のベルトラン・ラヴェドリン氏をお迎えして、三輪氏には写真資料の保護、ラヴェドリン氏には写真コレクションの予防的保存とオートクロームの誕生について特別講演いただきました。さらに、博物館や美術館などにおけるフィルム保存のための環境対策、デジタル情報の長期保存、新潟県中越地震による被災写真の整理事業、デジタルアーカイブの管理システムについてなど、多岐にわたる講演でセミナーを構成した。  
特別講演2件、講演数8件、参加者数132名
- 10) 第21回カメラ技術セミナー（平成25年11月21日 国立オリンピック記念青少年総合センター）  
セミナーテーマ「若手技術者のために 知識の共有化と技術者の交流を目指して」  
講演数6件、参加者数109名
- 11) 2013年度秋季研究発表（平成25年11月28日、京都工芸繊維大学60周年記念館）  
テーマ「若手研究者のために 若手研究者の活性化」  
一般セッション17件、インタラクティブセッション13件、参加者数51名
- 12) 西部支部初例会講演会（平成26年1月17日、長岡京市生涯学習センター）  
初例会：講演数2件、参加者数19名  
新年会：参加者数19名

- 13) メディカルイメージング連合フォーラム  
(共同開催 平成26年1月26～27日, 那覇市ぶんかテンプス館)
- 14) 第2回アンビエント技術セミナー (平成26年1月16日, 富士フィルム(株)東京ミッドタウン本社)  
テーマ:「PE (Printed Electronics) が求める次世代材料—プロセスの現状と材料課題」
- \*日本写真学会アンビエント技術研究会は, PE (Printed Electronics) が求める次世代材料に関心のある人たちが, 個々のPE プロセスについて, どのような特性を考慮して材料を作らなければならないか, 材料の物性をどこまで改善できると, どこまでのことができるようになるのか, など, プロセスと材料のかかわりをPEの実現に向けて, 理解を深めることを目的に, PEプロセスの現状とPE材料課題に, PE (Printed Electronics) に関連する研究者の良い情報交換の場として, セミナーを企画した。  
基調講演:「プリンテッドエレクトロニクスにおける材料プロセス基盤技術」鎌田俊英(産業総合研究所)講演4件, 参加者数30名
- 15) 写真好きのための定期講演会  
第7回写真好きのための定期講演会 (平成26年2月13日, 富士フィルム(株)東京ミッドタウン本社)  
テーマ:「チェキに見る 写真プリントの逆襲」青崎耕氏講演,  
「富士フィルム写真歴史博物館」・「富士フィルムフォトサロン」見学  
参加者数33名
- 16) 写真好きのための定例講演会  
第8回写真好きのための定例講演会 (平成26年3月19日, 株式会社ビクトリコ両国本社)  
テーマ「デジタルとアナログの融合 ～ネガフィルムをデジタルプリント(インクジェットプリント)で作成しプリントを行う手法の紹介～」亀田尚道氏講演  
参加者34名
- 17) 日本写真学会西部支部例会 (平成26年3月28日, 長岡京市生涯学習センター)  
テーマ「チェキに見る 写真プリントの逆襲」青崎耕氏講演  
講演数1件, 参加者数18名
- 18) 西部支部例会見学会 (平成26年4月18日, ナカガワフォトギャラリー)  
見学 参加者数13名
3. 研究及び調査の実施(定款第5条(3))
- 3-1 技術委員会の技術部会・研究会  
6つの技術部会と新設の科学写真研究会のもとに研究会・実行委員会を編成した。
- 【画像入出力部会】  
画像入出力研究会, カメラ技術研究会, 表現と技術研究会
- 【アンビエント画像部会】  
アンビエント画像研究会
- 【医用画像部会】  
医用画像研究会
- 【画像保存部会】  
画像保存研究会, 画像保存セミナー実行委員会, 文化財写真保存ガイドライン検討グループ, デジタルアーカイブ研究会(予定)
- 【アンビエント技術部会】  
アンビエント技術研究会, 光機能性材料研究会
- 【写真文化拡大部会】  
デジタル写真基礎講座, PHOTONEXT セミナー, CP+ セミナー
- 【科学写真研究会】  
科学写真研究会  
(補足説明)文化財写真保存ガイドライングループは, 当学会と文化財写真技術研究会(任意団体)との共同事業ある。
- 3-2 部会・研究会活動  
各部会・研究会は, 以下のような活動を行った。
- 【画像入出力部会】

カメラ技術研究会, 表現と技術研究会ではセミナーや会合を通じて活発な活動を行った。

- ・画像入出力研究会  
今年度は研究会としての活動はなかった。
- ・カメラ技術研究会  
7回の研究会を開催した。第21回カメラ技術セミナーを企画・運営した。
- ・表現と技術研究会  
2回の研究会を開催した。年次大会で特別セッションを企画した。また, 写真技術セミナーの企画に参加した。

#### 【アンビエント画像部会】

平成22年9月に活動開始。現在, 研究会はアンビエント画像研究会のみのため, 部会と研究会を一体の活動として運営している。

- ・アンビエント画像研究会  
平成25年度は研究会開催の都合がつかず, 顔画像の見えの改善に関する基礎検討を各委員が行った。

#### 【医用画像部会】

平成26年1月26日, 27日に, 那覇市ぶんかテンプス館にて, メディカルイメージング連合フォーラム2014を他学会とともに開催(共催)した。演題数70(フェロー記念講演1, 特別招待講演2, 一般演題67件)。両日とも100名程度の参加者があった。電子情報通信学会フェロー記念講演「医用画像認識と画像処理エキスパートシステム」中京大学 長谷川純一教授, 特別講演は, 「多様な肺疾患の診断・教育を支える類似症例検索技術の開発」パナソニック 小塚和紀氏, 「PETを用いた生体機能の画像化と臨床及び研究応用の現状」近畿大学 木村祐一教授。

#### 【画像保存部会】

今年度は, 第13回から第16回の4回の部会を開催し, 平成25年度の年次大会および画像保存セッションを企画, 実行した。また, 各部会において, 画像の保存に関する勉強会を併催し, 「映画保存協会におけるアーカイブの現状」, 「角川におけるコンテンツ保存の現状と課題」, 「アーカイブ保存メディアとしての新規フレキシブルオプティカルディスク(FOD)の紹介」, 「HDDによるデータ保存について」に関して専門家より講義を受けた。

- ・画像保存研究会  
年次大会の企画・運営に参加した。平成25年度画像保存セミナーを企画・運営した(10月31日から11月1日開催, 有料参加者132名)。
- ・デジタルアーカイブ研究会  
画像保存部会での専門家を招いた勉強会をもとに, H27初にデジタルアーカイブセミナー開催を実現することを課題として設定した。

#### 【アンビエント技術部会】

画像関連学会連合会の協同活動の一環として, 日本画像学会, 日本印刷学会, 画像電子学会のアンビエント技術分野にかかわりの深い各学会研究会主査による懇談会を開催し, 各学会の本分野における取り組みの現状を相互に報告し, 今後の協同活動について意見を交換した。

年次大会においてアンビエント技術に関するセッションを企画し, 平成25年5月27日にアンビエント技術セッション(招待講演3件, 4件のポスター発表を含む一般講演13件)を開催した。平成26年度の年次大会におけるアンビエント技術セッションを企画し, 招待講演, 依頼講演の講演者の選考を進めた。

- ・アンビエント技術研究会  
本部会研究会であるアンビエント技術研究会を3回(第11回研究会:平成25年4月12日(火), 参加者16名;第12回研究会:平成25年7月19日(金), 参加者16名;第13回研究会:平成25年10月10日(木), 参加者10名)を東京ミッドタウン 富士フィルム(株)本社会議室にて開催した。  
本技術部会の第2回目となるアンビエント技術研究会セミナー「PE (Printed Electronics) が求める次世代材料—プロセスの現状と材料課題」を企画し, 平成26年1月16日(木), 東京ミッドタウン富士写真フィルム(株)本社会議室にて開催(参加者:28名)

した。

・光機能性材料研究会

第10回光機能性材料セミナー、「一光励起制御を目指した金属ナノ構造の構築」を企画し、平成25年6月17日、東京ミッドタウン 富士フィルム（株）本社会議室にて開催（基調講演を含む講演数6件、参加者数58名）した。

【写真文化拡大部会】

- ・CP+における写真学会展示コーナーで、天体写真、SL写真、接写およびソフトフォーカス写真の作品を展示。あわせて「画像からくり」の機材と「レンチキュラーチェンジングピクチャー」も展示した。また、名刺及び連絡先の記入で写真学会誌1冊を無料で進呈することで学会への入会案内を積極的に行った。
- ・PHOTONEXT技術アカデミー、CP+技術アカデミーの各実行委員会（または担当者）を統括した。各セミナーの実績については2-1参照。

【科学写真研究会】

- ・年次大会・秋季研究発表会での原子核乾板に関する研究発表を勧誘し、年次大会で関連11件、秋季研究発表会で関連12件の発表を行い、この分野の拡大を図った。

3-3 技術委員会全体による活動：「写真の進歩」作成（進歩レビュー分科会）

専門分野別の技術進歩年次レビュー「2012年の写真の進歩」作成を行い、学会誌（76巻3号）およびホームページ上で報告した。

4. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第5条（4））

4-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 第50回アイソトープ・放射線研究発表会（平成25年7月3～5日、東京大学農学部弥生講堂、日本アイソトープ協会主催、その他64学会と共催）  
講演件数151件、ポスター発表31件
- 2) 画像4学会合同研究会（画像電子学会幹事学会、合同開催 平成25年12月12日、早稲田大学西早稲田キャンパス）  
セミナーテーマ「リアル3D再現 —3Dプリンティング、3D再現のための入力から出力までの技術動向と応用—」  
講演数8件、参加者数64名
- 3) 16) メディカルイメージング連合フォーラム（共同開催 平成26年1月26～27日、那覇市ぶんかテンブス館）
- 4) 第47回光学五学会関西支部連合会講演会（平成25年12月7日、大光電機ショールーム）  
テーマ「大規模光情報の未来」  
講演数4件
- 5) CP+技術アカデミー（平成26年2月13～2月14日、パシフィコ横浜：カメラ映像機器工業会主催）  
講演数10件、参加者数名のべ約470名
- 6) CP+学術団体コーナー展示（平成26年2月13日～2月16日、パシフィコ横浜：日本オプトメカトロニクス協会・日本光学会と共同）  
学会活動紹介及び写真作品展示 参加者 多数

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条（5））

5-1 平成25年度学会賞の授与

授賞式において、平成24年度学会賞の授与を行った。学会賞受賞者は次の通りであった。

名誉賞	高田俊二（前会長、千葉大学）
功績賞	久下謙一（千葉大学）、山岸 治（日本写真学会）
功労賞	村井清昭（セイコーエプソン）、荻野正彦（水上印刷）
学術賞	稲垣由夫（富士フィルム）
技術賞	田中誠二・植松照智・河村典子・倉橋秀和・上月忠司（富士フィルム）、竹内 宏・渡部 剛（ニコン）
論文賞	久保田寛隆・久下謙一・安田仲宏・小平 聡・歳藤利行・中村光廣（名古屋大学・千葉大学）
進歩賞	鄧 珮（千葉大学）
東陽賞	久保元幸（ザプリンツ）
会長表彰	なし

5-2 平成25年度コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励金（写真研究奨励金）授与

授賞式において、平成25年度コニカミノルタ写真研究奨励金の授与を行った。

交付対象者 中口俊哉（千葉大学）

5-3 平成25年度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与

授賞式において平成25年度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与を行った。

交付対象者 一川 誠（千葉大学）、山本昇志（東京都立産業技術高等専門学校）

5-4 平成26年度学会賞選考

平成26年度の学会賞は、各選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

名誉賞	無し
功績賞	松本政雄（理事・西部支部長、大阪大）
功労賞	岩本康平（前理事、セイコーエプソン）
学術賞	白山真理（日本カメラ博物館）
技術賞	宮成 洋（キャノン）、新谷 大（パナソニック）
進歩賞	福田 努（東邦大学）、高橋 覚（神戸大学）
論文賞	谷 忠昭・飯野裕明・内田孝幸・半那純一（写真学会フェロー・東京工業大学・東京工芸大学）、大槻理恵・横田朋宏・坂巻 剛・富永昌治（カネボウ化粧品・千葉大学）

東陽賞 富士フィルム（株）

会長表彰 無し

5-5 平成26年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考

平成26年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 大野 玲（東京工業大学）

5-6 平成26年度日本写真学会小島裕研究奨励金交付対象者の選考

平成26年度日本写真学会小島裕研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 白石幸英（山口東京理科大学）、中 竜大・浅田貴志（名古屋大学）

6. その他目的を達するために必要な事項（定款第5条（6））

6-1 総会（1回）

平成25年5月28日（火）、千葉大学・けやき会館（千葉市）において一般社団法人化に移行後の第2回目の定時社員総会が開催され、平成24年度事業報告、平成24年度収支決算報告および会計監査報告、平成25年度事業計画案、平成25年度収支予算案、平成25年度役員等の選任、会長の選任、副会長の選任、会員の除名の計6件の議案が承認された。

6-2 理事会（12回）

毎月定例に開催し、本学会の運営に必要な事項を審議した。

1) 会務分担

役員及び会務の分担は次の通りであった。

会長	小林裕幸（千葉大学）
副会長（企画・総務）	中野 寧（コニカミノルタ）
副会長（技術）	小林和久（三菱製紙）
西部支部長	松本政雄（大阪大学）
総務理事	中野 寧（コニカミノルタ）
庶務委員長	鈴木博文（ニコン）
財務委員長	甲田謙一（日本大学）
技術委員長	小林和久（三菱製紙）
編集委員長	山田勝実（東京工芸大学）
拡大PT委員長	中野 寧（コニカミノルタ）
広報委員長	桑山哲郎（キャノン）
画像保存部会委員	井上直夫（奈良文化財研究所）
アンビエント技術部会長	半那純一（東京工業大学）
画像入出力部会長	豊田堅二（武蔵野美術大学）
医用画像部会長	羽石秀昭（千葉大学）
医用画像副部会長	松本政雄（大阪大学）

画像保存部会長 大関勝久 (富士フィルム)  
 写真文化拡大部会長 四方律夫 (セイコーエプソン)  
 写真文化拡大副部会長・カメラ技術研究会 井上義之 (パナソニック)  
 カメラ技術研究会 松澤良紀 (オリンパスイメージング)  
 医用画像部会部員 阿賀野俊孝 (富士フィルム)  
 新規プリンティング技術分野特命 郡司秀明 (日本印刷技術協会)  
 監事 三宅洋一 (千葉大学)  
 監事 高田俊二 (千葉大学)  
 会勢拡大委員長 山岸 治 (日本写真学会事務局)  
 幹事・年次大会実行委員長・事典出版委員長 久下謙一 (千葉大学)  
 幹事・秋期研究発表会実行委員長 岩崎 仁 (京都工芸繊維大学)  
 幹事・広報副委員長 匠磋俊雄 (ニコン)  
 幹事・画像保存部会・研究会 高橋則英 (日本大学)  
 幹事・アンビエント画像部会長 津村徳道 (千葉大学)  
 幹事・画像保存副部会長 山口孝子 (東京都写真美術館)  
 幹事・医用画像副部会長 桑原孝夫 (富士フィルム)  
 幹事・アンビエント技術研究会副主査 稲垣由夫 (富士フィルム)  
 幹事・アンビエント技術研究会副主査 飯野裕明 (東京工業大学)  
 幹事・アンビエント技術研究会副主査 宮本公明 (富士フィルム)  
 幹事・アンビエント技術研究会 内田孝幸 (東京工芸大学)  
 幹事・進歩レビュー分科会主査 吉田英明 (オリンパスイメージング)  
 幹事 岩本康平 (セイコーエプソン)  
 事務局長 山岸 治

## 2) 役員研修会 (8月)

会長以下の役員が研修会を開催し、本学会の会勢拡大の具体的な進め方について議論した。

平成 25 年 8 月 22 日 (木) コニカミノルタ新宿野村ビル

研修課題：日本写真学会の会勢拡大の具体的な進め方

(1) 新規会員獲得による会勢拡大：写真好き層の会員拡大策 / CP+ での学会 PR と会員勧誘策

(2) 今後の学術領域について：画像関連学会連合会の進め方 / 画像関連学会連合会での新規共同活動、新規プリンティング技術分野の活動構想

(3) 画像保存部会のこれまでの取組みと今後について

## 6-3 支部の運営に関する会議

### 1) 西部支部幹事会

4 回の幹事会を開催し、講演会、見学会等の企画、準備および支部運営に関する協議を行った。

### 6-4 各委員会

#### 1) 役員等選考委員会

役員等の選考を行った。

#### 2) 人事委員会

学会職員の勤務状況と処遇についての協議を行い、来年度の処遇を決定した。

#### 3) 庶務委員会

平成 24 年度事業報告並びに平成 25 年度事業計画案の総会承認を得た。活動計画表、組織系統図を更新した。平成 25 年度事業報告案並びに平成 26 年度事業計画案を作成し、理事会承認を得た。

#### 4) 財務委員会 (2 回)

平成 24 年度決算報告並びに平成 25 年度予算案の総会承認を得た。平成 25 年度中間決算内容を審議し承認した。会の活動状況改善、特に財務改善の検討を行った。平成 25 年度決算報告並びに平成 26 年度予算案を作成し、理事会承認を得た。

#### 5) 編集委員会 (4 回)

学会誌の編集方針、特集記事の企画検討、「解説」、「口絵」、「写真のある美術館・博物館・資料館」などの著者選定を行った。

年次大会と秋季研究発表会の講演要旨を学会誌に組み込むことで、会員全員へ向けての情報発信を強化した。投稿論文の勧誘を行い、掲載論文数の増加を図った。英文論文誌の創設に向けての準備作業を行った。

## 6) 技術委員会 (電子メールによる会議, 随時)

3-1 項に記載した技術委員会の部会・研究会再編成を行うにあたり、新技術部会長からなる技術委員会を会議及び電子メールで随時実施し、本年度技術委員会所属の研究会活動を推進した。日本写真学会誌「2012 年の写真の進歩」を担当。

## 7) 企画実行委員会 (電子メールによる会議, 随時)

新規事業の企画ならびに実行のための活動を模索したが、委員会組織が未整備なため限定的であった。写真に関する資格検定であるフォトマスター検定の監修協力事業を引き続き実施した。

## 8) 国際交流委員会

映像情報メディア学会・画像電子学会・日本印刷学会・日本画像学会と共催で画像関連学会国際会議の開催を行う為、企画委員会・プログラム委員会を編成し(当会からは、久下謙一・中野寧・山岸治が参画)具体化を検討中。2015 年 6 月 3～5 日に 1st International conference on Advanced Imaging 2015 (ICAI2015) として実施する予定。

## 9) 広報委員会

ホームページのタイムリーな更新を行うことにより会員への情報提供サービスを向上させた。特に、「写真好き」のための定例講演会の広報にパナーを活用するなど新しい試みを行った。

「CP+(プラス)2014」(CAMERA & PHOTO IMAGING SHOW)へ出展し、本会の活動内容等の紹介を行った。(2 月 13 日～2 月 17 日, パシフィコ横浜) また学会誌 1 冊を渡すのと交換に連絡先の情報を取り、会員増加運動の一環とした。

## 10) 会勢拡大委員会

研究・講演事業での入会キャンペーンや今年度から実施の「写真好きの定期講演会」での写真愛好家向けの講演会など会員のメリットの告知を通して、会員外の一般に対して本学会入会への勧誘・啓蒙活動を行った。

## 11) 新制度法人化対応委員会

2012 年 4 月 1 日に一般社団法人に移行登記を行い、4 月 18 日に移行登記事項証明書(履歴全部事項証明書)受理、4 月 18 日に内閣府への移行登記完了届出(内閣総理大臣宛て)を行い、当会の一般社団法人化への移行を完了した。

平成 25 年 6 月 28 日に、第 2 回社員総会議決事項および平成 25 年度決算結果より公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益認定等委員会に報告を行い、11 月 18 日に最終受理された。

## 12) 出版委員会

写真の事典の編集を引き続き進めた。原稿の内容を精査し、組み版への作業を進めて、2014 年秋までに朝倉書店から刊行の予定で作業を進めた。

## 6-5 各担当

### 1) 日本学術会議担当

特に要請がなかったので活動はなし。

### 2) JABEE 担当

特に要請がなかったので活動はなし。

### 3) 画像関連 4 学会の協働

本年の画像 4 学会合同研究会は、画像電子学会が幹事学会となり、リアル 3D 再現を目指して、入力から出力までの技術動向と応用に関して、現状の課題と将来展望を議論する企画を行った。

### 4) 科学技術振興機構

科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業選定に応募し、その採択に伴い、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行った。

## 7. 会勢

本年度末(平成26年3月31日現在)における会員の異動状況は、次の通りである。

	本年度末 (平成26年3月31日現在)	前年度末 (平成25年3月31日現在)	増減
正会員	757名	770名	13名減
賛助会員	42社	44社	2社減
合計	799名	814名	15名増

以上

### 【第2号議案】平成25年度決算報告並びに会計監査報告 (●●ページ参照)

### 【第3号議案】画像関連連合会設立の件

日本写真学会では、画像関連諸分野の学協会が集い、協力することにより、統合的な画像の取り扱いに立脚した画像技術の新たな展開に寄与する画像に関連する情報の発信と議論の場を提供することを目的に、その拠点作りの活動を2013年から開始し、その準備を進めてまいりました。

2014年4月1日付で以下の設立趣意書に賛同頂いた(一社)画像電子学会、(一社)日本印刷学会、(一社)日本画像学会及び(一社)日本写真学会の4学会による「画像関連学会連合会」を設立いたしました。

一般社団法人 日本写真学会  
会長 小林 裕幸

#### 画像関連学会連合会設立趣意書

情報流通技術のなかでも、画像関連の諸技術は、人の五感のうち視覚を介して情報を伝達するという共通の基盤をもつにもかかわらず、関連の学協会や工業会は個別技術に立脚した独自の活動を主として展開して来ましたが、しかしながら、情報のデジタル化によって、画像の入力から出力に至る情報処理プロセスは、実質的にも、より共通の技術基盤を持つに至りました。情報技術が社会インフラとなった今、今後の情報社会の発展を考えると、視覚特性の把握、空間情報の入力、画像への情報加工、画像の出力・表示、画像の認識を含めた幅広い分野での技術革新と画像を有効に用いた社会的システムの構築を考えて行くことが必要であり、その実現に向けて、基礎となる学術領域、関連産業を横断的に結び付ける場の構築が必要となります。同時に、また、その有効性を担保する画像関連技術の様々な標準化も求められることにもなります。

このような社会要求に対して答える為に、画像関連諸分野の学協会が集い、協力することにより、統合的な画像の取り扱いに立脚した画像技術の新たな展開に寄与する画像に関連する情報の発信と議論の場を提供することを目的に、その拠点作りの活動を2012年から開始し、その準備を進めてまいりました。

画像に関わる諸分野を網羅的に扱うにはまだまだ不十分とはいえ、統合的な活動を一日でも早く開始し、この目的に資する場の提供を行うという観点から、「画像関連学会連合会」を設立することをここに提案いたします。

なお、この連合会では協同事業として、秋季合同研究会の開催、ならびに、国際会議として、ICAI2015(The 1<sup>st</sup> International Conference on Advanced Imaging 2015)を2015年6月に開催し、今後、本連合会の合同事業として発展させていく予定であります。

この連合会は門戸を広く構え、画像あるいは画像の基盤となる関連分野の研究者・技術者が自由に参加できる団体であることを目指しております。

貴会におかれましては、ぜひこの趣旨をご理解いただき、御賛同、御参加下さいますようお願い申し上げます。

2014年4月1日  
画像関連学会連合会  
議長 半那純一

### 【第4号議案】平成26年度事業計画

#### 1. 基本方針(定款第4条)

- 1) 一般社団法人化三年目の年度とし、会勢拡大及び財政改善を実行する年度と位置付け、H22年度底打ちからH23年度～H26年度の回復基調を著実に軌道に乗せる。
- 2) 写真に関する基盤技術の深耕と基盤技術から更に次世代の画像情報分野への領域拡大と写真文化の裾野拡大の為に、①高度情報通信社会に適合する次世代の画像映像情報分野の技術としてのアンビエント技術部会、アンビエント画像部会、②デジタルも含めた画像保存部会及び最新の医用分野での医用画像部会、③写真産業を支える画像情報技術としての画像入出力部会と写真文化の裾野を拡大する施策と活動の写真文化拡大部会の6部会活動の活性化と会員拡大を行う。これらの技術部会活動推進の為に、年次大会・研究会・セミナー・学会誌刊行・電子広報の充実及び他学会・他協会との連携の強化を目指す。
- 3) 写真及び画像に関する技術領域を拡大し、研究成果の発表及び関連情報提供の為に、写真学会誌の充実と学術図書刊行を行う。
- 4) 会員へのサービスを第一義としながら社会公益性の観点からも学会の運営を行う。
- 5) 以下のことを特に本年度の重要課題として位置付け、行動する。
  - ①画像入出力部会、アンビエント画像部会、医用画像部会、画像保存部会、アンビエント技術部会、写真文化拡大部会の6つに再編された技術部会の各部会に、各研究会とセミナー等の実行委員会を組織化して、調査・研究の充実化を図る。
  - ②各技術部会での新規技術領域の調査・研究の充実化を図る。
  - ③写真好きの写真愛好者を対象にした、写真知識・写真文化の会勢拡大を図る。
  - ④学会誌の充実の為に、英文論文誌の発行及び投稿数の拡大を図る。
  - ⑤画像関連学会連合会を発足し、連携事業等の活発化を図る。
  - ⑥画像関連学会連合会の合同事業として2014年画像関連学会連合会—合同秋季大会—を開催する。
  - ⑦2015年国際会議の画像関係5学会での共催を行う。
  - ⑧2016年90周年記念事業に向け、企画および推進体制を構築する。
  - ⑨学会広報体制の強化と学会情報の活発な発信を図る。
  - ⑩写真技術の保存・継承行動の企画(出版、博物館協同等)。

以上の基本方針の基に、以下の事業を企画、実施する。

#### 2. 学会誌・学術図書及び資料の刊行(定款第5条(1))

##### 2-1 学会誌の刊行

- 1) 学会誌を年間4冊発行する。
- 2) 年次大会の要旨集を学会誌の2号として、秋季研究発表会の要旨集を4号として発行する。
- 3) 論文投稿を積極的に勧誘し、親切な審査により質の高い論文を数多く掲載する。あわせて投稿料収入の増加を図る。

##### 2-2 英文論文誌「Bulletin of the Society of Photography and Imaging of Japan」の発行

- 1) 6、12月発行予定の英文の論文誌をweb誌として準備し、掲載論文の投稿を呼びかける。
- 2) 新英文誌に掲載された論文の題目や著者を分野別に整理した上で、画像4学会の会員に電子メールでお知らせする。

##### 2-3 学術図書の刊行に関する事項

- 1) 「写真の事典」の2014年秋刊行をめざして、編集作業を進める。
- 2) 研究発表会及び学術講演会等の開催(定款第5条(2))

##### 3-1 研究発表会、講演会などの実施

- 1) 年次大会研究発表講演会(平成26年5月26日～27日、千葉大学)
- 2) 第11回光機能性材料セミナー(平成26年 詳細未定)
- 3) PHOTONEXT2014写真学会技術アカデミー(平成26年6月17日、東京ビッグサイト)
- 4) カメラ技術セミナー(平成26年11月19日、国立オリンピック記念青少年総合センター)

- 5) 画像保存セミナー（平成 26 年，詳細未定）
- 6) 2014 年画像関連学会連合会—合同秋季大会—（平成 26 年 11 月 28 日，京都テラス/京都工芸繊維大学）
- 7) 新規プリンティング技術セミナー（仮）（平成 26 年，詳細未定）
- 8) 西部支部主管行事
- 9) 光学五学会関西支部連合講演会（第 48 回，詳細未定）
- 10) 「写真好き」のための講演会（西部支部地域での開催を含め 6 回）
- 11) 第 3 回目アンビエント技術研究会セミナー（詳細未定）
- 12) 写真技術セミナー（平成 26 年，詳細未定）

### 3-2 新規事業

昨年度は，6 技術部会を基本に，科学写真研究会，画像保存部会内にデジタルアーカイブ研究会を立ち上げ新規技術領域を高度情報通信社会に適合する次世代の画像映像情報分野の創成し，今年度セミナー開催等の具体化を図る。又，写真文化の拡大・写真好きの層への会員拡大のために「写真好きのための定例講演会」の定期実施と CP+2014 等での入会活動を行った。加えて「写真技術セミナー（仮称）」実行委員会を写真芸術学会と共同で編成し，今年度の具体化を図る。

## 4. 研究及び調査の実施（定款第 5 条（3））

### 4-1 技術委員会専門研究会活動の実施

技術委員会の中に本学会の主要科学技術分野別の部会・研究会を設け，以下の活動を行うことにより，本学会会員の研究の発展と資質の向上並びに会員の増強をはかる。

特に，本学会が取り組む技術分野の拡大・充実化と写真で培った基盤技術の深耕・展開をはかるために，部会・研究会の積極的再構成を検討する。

又，画像入出力部会と写真文化拡大部会が主になって，写真愛好家層への学会活動を具体化して，会員向けの情報提供の充実化をはかる。

画像関連学会連合会の合同研究会の枠組み構築し，その中の活動も具体化させる。

### 【画像入出力部会】

部会の研究会活動を活性化する。

- ・画像入出力研究会  
年次大会の企画・運営に参加する。
- ・カメラ技術研究会  
年 7 回の研究会を開催する。「カメラ技術セミナー」を企画・運営する。
- ・表現と技術研究会  
年次大会および写真技術セミナーの企画・運営に参加する。研究会を隔月で開催する。

### 【アンビエント画像部会】

年 1 回の研究会を開催する。撮影見学会等を企画する。

- ・アンビエント画像研究会  
年次大会の企画・運営に参加する。

### 【医用画像部会】

- ・他の医用画像関係の学会とともにメディカルイメージング連合フォーラムを開催する。
- ・医用画像研究会  
年次大会の企画・運営に参加する。

### 【画像保存部会】

平成 26 年度年次大会での画像保存セッションの運営およびセミナーの企画，実行を行う。また，画像保存研究会およびデジタルアーカイブ研究会とともに，画像保存セミナー，デジタルアーカイブセミナーの開催を企画，実行する。セミナー等の内容は学会誌にて広く周知する。

- ・画像保存研究会  
「画像保存セミナー」を企画・運営する。画像保存に関する研究会・見学会等を開催する。
- ・デジタルアーカイブ研究会  
デジタル画像の保存についての取り組みを推進する。デジタル画像保存に関する勉強会を継続するとともに，セミナーの開催を目指す。

### 【アンビエント技術部会】

従来の光機能材料研究会の活動に加え，アンビエント技術研究会における活動基盤づくりを進め，会員向けの研究会の開催を含めた学会内外への研究会活動を展開する。年次大会においてアンビエント技術 Session を開催し，平成 27 年の年次大会におけるアンビエント技術 Session を企画する。

### ・アンビエント技術研究会

研究会内部の基盤づくりと，年次大会にける広報とセッションの開催，会員内外の参加を目的とした研究会の開催を行う。（3 回開催予定。）画像 4 学会等の研究会との協調も視野にいれ，活動を活発化する。

### ・光機能性材料研究会

第 11 回光機能性材料セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。

### 【写真文化拡大部会】

写真学会と一般の写真愛好家，写真大学を中心とした学生との交流を図るだけでなく，今後は高等学校の写真部員やカメラ好きの女性にまで対象を広げていこうと活動を行っていく。そのため黑白写真教室など，専門家以外の方々を対象にした企画を行い，参加者に写真学会の存在をアピールできる活動を行ってゆく。写真学会の専門性を活かし，一般人との垣根を低くする活動を行いたい。

### 4-2 技術委員会全体による活動：「写真の進歩」作成（進歩レビュー分科会）

専門分野別の年次レビュー「写真の進歩」作成を行い，学会誌上で報告し，学会ホームページに掲載する。

### 5. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第 5 条（4））

- 5-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会，討論会などの実施
  - 1) 画像関連学会連合会を平成 26 年 4 月 1 日に立ち上げ，秋季大会の合同開催，研究会の合同開催等，画像関連学会連合会の連携領域の拡大をはかり活動を推進する。
  - 2) 画像 4 学会連合会で合同秋季大会（日本画像・日本印刷・画像電子・日本写真の各学会）を 11 月 28 日京都テラスで実施する（予定）。
  - 3) 画像関係国際会議を「1<sup>st</sup> ICAI (International Conference on Advanced Imaging)」を平成 27 年 6 月 17～19 日 5 学会で共催する。企画準備委員会での骨格検討とプログラム・トラック委員会，具体化検討を行う。
  - 4) 2015 年 CP+ 技術アカデミー（協力 平成 26 年度 カメラ映像機器工業会主催）
  - 5) 2015 年 CP+ 学術団体コーナー展示（共同 平成 26 年度）での学会宣伝と入会活動の展開
  - 6) 2014 年度 PHOTONEXT 技術セミナー（平成 26 年度 感材工業会共催）
  - 7) アイソトープ・放射線研究発表会（平成 26 年度 詳細未定 日本アイソトープ協会主催）
  - 8) メディカルイメージング連合フォーラム（共同開催 平成 26 年度 詳細未定）
  - 9) 第 48 回光学五学会関西支部連合講演会（平成 26 年度 詳細未定）
  - 10) その他
- 5-2 国際交流に関する事項
  - 1) 2015 年の第一回画像技術国際シンポジウム（ICAI）の，日本画像学会との共催に向けた準備を進める。
6. 研究の奨励および研究業績の表彰（定款第 5 条（5））
  - 6-1 平成 26 年度学会賞（功績賞，功労賞，学術賞，技術賞，論文賞，進歩賞，東陽賞，会長表彰）の授与。
  - 6-2 平成 26 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金の授与
  - 6-3 平成 26 年度小島裕研究奨励金の授与
  - 6-4 平成 27 年度学会賞（名誉賞，功績賞，功労賞，学術賞，技術賞，論文賞，進歩賞，東陽賞，会長表彰）受賞者の選考
  - 6-5 平成 27 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金

交付対象者の選考

6-6 平成 27 年度小島裕研究奨励金交付対象者の選考

6-7 名誉会員の推薦、永年会員の認証

6-8 フェローの推薦と認定

7. その他目的を達するために必要な事項（定款第 5 条（6））

7-1 運営に関する会議

第 3 回社員総会（平成 26 年 5 月 27 日）、理事会（年 6 回）、庶務委員会、財務委員会、人事委員会、その他。

7-2 編集委員会（年 4 回）

学会誌の編集方針、内容の更新、特集・各種記事の企画、論文審査体制、著作権の整備などの検討を行う。平常業務は電子メールを活用し、委員間の意見交換を随時行う。企画編集委員会の陣容強化を図る。会員からの学会誌に関する意見聴取につとめる。学会誌の電子ジャーナル化作業を引き続き行い、同時に投稿を呼びかける。英文論文誌の発行を行う。

7-3 技術委員会

定期的に各技術部会・研究会の代表者が集まり（電子メールによる会議含む）、研究会の活性化及び活動状況等の情報交換を行う。又、研究会、講演会、セミナーなどを適宜開催し、広く本学会内外に活動状況を提示することにより、本学会における当該科学技術分野の向上を図る。年次大会へ全研究会が参加する体制を整える。

7-4 企画実行委員会

新規事業の企画ならびに実行推進にあたるため、委員会の整備強化を図る。学会として写真に関する資格検定であるフォトマスター検定の監修協力を継続し、その他の関連事業についても検討する。

7-5 国際交流委員会

画像関係国際会議を「1<sup>st</sup> ICAI (International Conference on Advanced Imaging)」の開催を進める。議案および活動報告はその都度理事会に諮る（不定期に年数回）

7-6 広報委員会

ホームページの改善および会員へのタイムリーな情報の発信を継続的に行う。英文論文誌刊行をサポートするためのホームページ整備を進める。写真関係のイベント等を通じ、一般の方々へ本会の紹介を積極的に行う。

7-7 会勢拡大委員会

昨年各種講演会、セミナーでの正会員勧誘に加え、役員主導の勧誘活動を行う。又、賛助会員の減少を食い止めて、デジカメ関連、カメラ流通業など、従来非会員であった分野に積極的に働きかける。

新規技術部会、研究会のメンバー拡大を図り、部会・研究会の活性化を図る。

7-8 画像関連学会連合会関連委員会

画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会および当会から会長・副会長からなる準備委員会を 6 回にわたり行い、連合会の目的、講演研究事業での具体的な共同事業の検討、会則、編集等の検討を行った。

3 月 31 日に画像関連学会連合会の調印式を実施し、4 月 25 日に発足をを行う。

「画像関連学会連合会設立趣旨書（抜粋）」

情報流通技術のなかでも、画像関連の諸技術は、人の五感のうち視覚を介して情報を伝達するという共通の基盤をもつにもかかわらず、関連の学協会や工業会は個別技術に立脚した独自の活動を主として展開して来た。しかしながら、情報のデジタル化によって、画像の入力から出力に至る情報処理プロセスは、実質的にも、より共通の技術基盤を持つに至った。情報技術が社会インフラとなった今、今後の情報社会の発展を考えると、視覚特性の把握、空間情報の入力、画像への情報加工、画像の出力・表示、画像の認識を含めた幅広い分野での技術革新と画像を有効に用いた社会的システムの構築を考えて行くことが必要であり、その実現に向けて、基礎となる学術領域、関連産業を横断的に結び付ける場の構築が必要となる。同時に、また、

その有効性を担保する画像関連技術の様々な標準化も求められることにもなる。

このような社会要求に対して答える為に、画像関連諸分野の学協会が集い、協力することにより、統合的な画像の取り扱いに立脚した画像技術の新たな展開に寄与する画像に関連する情報の発信と議論の場を提供することを目的に、その拠点作りの活動を 2012 年から開始し、その準備を進めてきた。

画像に関わる諸分野を網羅的に扱うにはまだまだ不十分とはいえ、統合的な活動を一日でも早く開始し、この目的に資する場の提供を行うという観点から、「画像関連学会連合会」を設立することをここに提案する。

なお、この連合会では協同事業として、秋季合同研究会の開催、ならびに、国際会議として、ICAI2015 (The 1<sup>st</sup> International Conference on Advanced Imaging 2015) を 2015 年 6 月に開催し、今後、本連合会の合同事業として発展させていく予定である。

この連合会は門戸を広く構え、画像あるいは画像の基盤となる関連分野の研究者・技術者が自由に参加できる団体であることを目指す。

以上

## 【第 5 号議案】平成 26 年度収支予算案 (●●ページ参照)

## 【第 6 号議案】平成 26 年度役員等の選任

1-1 新役員候補者（敬称略）

1) 理事 8 名

岩崎 仁（京都工芸繊維大学）

甲田謙一（日本大学）

小林和久（三菱製紙）

鈴木博文（ニコン）

山口孝子（東京都写真美術館）

山田勝美（東京工芸大学）

吉田哲夫（富士フイルム）

吉田英明（オリンパスイメージング）

2) 監事 1 名

高田俊二（元富士フイルム、千葉大学）

1-2 残留役員（敬称略）

1) 理事 9 名

井上義之（パナソニック）

大関勝久（名古屋大学）

桑山哲郎（キヤノン）

郡司秀明（日本印刷技術協会）

小林裕幸（千葉大学）

四方律夫（セイコーエプソン）

中野 寧（コニカミノルタ）

半那純一（東京工業大学）

松澤良紀（オリンパスイメージング）

2) 監事 1 名

三宅洋一（千葉大学）

参考

2. 平成 26 年度評議員

1) 平成 26 年度委嘱 8 名

阿部隆夫（信州大学）

伊沢太郎（凸版印刷）

小川治男（オリンパスイメージング）

金田英治（日本写真学会フェロー）

鈴木邦夫（三菱製紙）

田中俊夫（元京都工芸繊維大学）

谷 忠昭（日本写真学会フェロー）

松田元伸（元大阪府立大学）

2) 残留評議員 21 名

井上伸昭 (元富士フィルム)  
 岩野治彦 (元富士フィルム)  
 大石恭史 (元会長)  
 大野隆司 (元千葉大学)  
 奥村資紀 (セイコーエプソン)  
 北見耕一 (東京工芸大学)  
 久保走一 (千葉大学)  
 藤沢秀一 (日本放送協会)  
 久保田敏弘 (京都工芸繊維大学)  
 小坂橋洗夫 (元会長)  
 後藤哲朗 (ニコン)  
 腰塚国博 (コニカミノルタ)  
 古森重隆 (富士フィルム)  
 羽生禎侍 (東京工芸大学)  
 藤井悦男 (元近畿大学)  
 藤嶋 昭 (東京理科大学)  
 真栄田雅也 (キャンノン)  
 松田義弘 (日本大学)  
 山田元茂 (ダイヤミック)  
 山本京之介 (三菱製紙)  
 若尾真一郎 (東京工芸大学)

### 3. 幹事

岩本康平 (セイコーエプソン)  
 匠瑛俊雄 (ニコン)  
 高橋則英 (日本大学)  
 津村徳道 (千葉大学)  
 内田孝幸 (東京工芸大学)  
 桑原孝夫 (富士フィルム)  
 稲垣由夫 (富士フィルム)  
 豊田堅二 (武蔵野美術大学)  
 宮本公明 (富士フィルム)  
 飯野裕明 (東京工業大学)  
 久下謙一 (千葉大学)  
 松本政雄 (大阪大学)

### 【第7号議案】会員の除名

定款第10条により、15名を除名とする。

以 上

### 【付 則】

#### ●画像関連学会連合会 規約

#### 第1条

本連合会は、画像関連学会連合会（略称：画像連合、英語名：後日検討）と称する。

#### 第2条

本連合会は、画像諸分野における学協会活動に関する相互の情報連絡の便宜を図り、連合会活動および共同活動を通して画像諸分野の発展並びに普及を行い、併せて社会に貢献することを目的とする。

#### 第3条

本連合会は第2条の目的を達成するために以下の活動を行う。

- (1) 画像諸分野の研究者間のコミュニティを構築し、その発展を目指す。
- (2) 画像諸分野に関連する国内外の代表として活動する。
- (3) その他の画像諸分野に関連する研究・教育に関しての活動を支援する。

\*具体的な活動については付則に記す。

#### 第4条

本連合会は、画像諸分野の発展を目的とする以下の要件を満たす学協会によって構成され、それぞれの学協会を一会員とする。

(1) 学会で、この連合の目的に賛同し、共同で活動することが可能な団体であること

(2) 研究者・技術者が主たる構成員である非営利団体

#### 第5条

本連合会は運営として会議形態をとり、以下の代表議長（以下議長）並びに代議員からなる。

(1) 代表議長 1名

(2) 代議員は会員学協会毎に、学協会から推薦された2名

\*会の運営を担当する事務局は議長選出学協会の事務局がこれを兼ねる。

#### 第6条

第5条に掲げる者のうち代表議長は連合会代議員会（以下代議員会）において代議員の互選によって選出する。

#### 第7条

議長の任期は2年とする。なお、引き続きその任にある場合、2期（4年）を超えて留まることはできない。選出については細則にて別途定める。

#### 第8条

本連合会は毎年1回以上の代議員会を開催する。代議員会は過半数の代議員の出席をもって成立とする。また、議長が必要と認められたとき、あるいは全会員学協会の1/3以上の要求があったときに臨時代議員会を開催する。

#### 第9条

本連合会の代議員会には、各学協会から推薦された2名の代議員として出席するものとする。また、代議員代理として議決権を付与しない代理者が参加することを認める。

#### 第10条

本連合会には、参画する学協会間において共同の研究会活動を推進する為に共同研究委員会、ならびに学術雑誌共同発行委員会をおくことができる。

#### 第11条

本連合会には、議長の職責遂行を助けるために代表補佐若干名を置くことができる。代表補佐は、本連合の会員学協会に所属する研究者のうちから議長が任期を定めて任命する。ただし議長補佐の任期は議長の任期を超えないものとする。

#### 第12条

本連合会への入会および脱退は、所定の書式（別添）に必要事項を記入して議長に提出する。議長は全代議員に可否を諮り、過半数の代議員の賛同が確認された場合に承認される。

#### 第13条

本規約は代議員会で全代議員の過半数以上の賛同をもって改正することができる。

#### 第14条

議決は代議員会において出席代議員の過半数の賛同があれば成立する。ただし、議決案件については会議開催の2週間前までに全代議員に通知しなければならない。

#### 第15条

第4条によって規定される会員学協会は本連合の運営費として、年額30,000円を納める。2年間滞納した会員学協会は代議員会で議決の上、除名することができる。また、本連合会への入会時に20,000円の入会金を合わせて納めることとする。

#### ●画像関連学会連合会 規約付則

- 1) 連合の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。
- 2) 運営費は事務局で管理し、代議員会等の開催経費やホームページ維持管理費用等の恒常的な運営経費および本連合の目的達成のために使用する。
- 3) 本連合には2名の会計監査委員をおく。代議員の互選により選出し任期は2年とする。監査委員は年度始めの代議員会にて前年度の監査報告を行う。
- 4) 本連合の会計上の事務局は、東京工芸大学内（下記住所）におく。東京都中野区本町2-9-5

## 5) 第3条記載の活動は以下のものを含む

- ・年次大会の・秋季大会の共催
- ・共同研究会活動
- ・学会誌・英文論文誌の共同発行
- ・国際会議の共催
- ・講師の相互派遣

## ● 連合代表選出議決細則

1. 議長は会員学協会の所属であり、会員学協会の会長あるいはそれに準じるものから選出する。
2. 会議の議長選出議決にあたっては各代議員が2個の議決権をもつ。2名の代議員の内どちらかが出席できない場合、出席した代議員が2票の投票権を持つ。
3. 本細則の改正は規約の改正規程に準ずる。

## 一般社団法人 日本写真学会 第3回定時社員総会議事録

1. 開催日時 平成26年5月27日 午前9時00分～午前9時50分

2. 開催場所 千葉大学 けやき会館 1F 大ホール

3. 議決権を有する代議員総数 35名

4. 議決権を有する出席社員数 32名 (本人出席:12名, 委任状:20名)

## 5. 出席代議員

飯野裕明, 池洲 悟, 茨木一彦, 今泉祥子, 一谷修司, 藤野 真, 内田孝幸, 関目宏行, 加藤隆志, 桑原孝夫, 小林範久, 酒井健男, 佐藤 慈, 杉本和俊, 佐藤智生, 柴 史之, 清野晶宏, 澤田卓也, 匝瑳俊雄, 高橋則英, 長 倫生, 前野 浩, 中口俊哉, 中村一郎, 西垣仁美, 平井 勇, 水口 淳, 湊 健, 宮田公佳, 山野泰照, 吉田 成, 渡辺康弘

## 6. 出席役員および役員候補者

理事：井上義之, 岩崎 仁, 大関勝久, 桑山哲郎, 郡司秀明, 甲田謙一, 小林和久, 小林裕幸, 四方律夫, 鈴木博文, 中野 寧, 松澤良紀, 山口孝子, 山田勝実, 吉田哲夫, 吉田英明

監事：三宅洋一, 高田俊二

## 7. 議事録作成者

事務局：山岸 治

## 8. 議事の経過の要領及びその結果

会長の小林裕幸は定款第17条の規定により、議長となり開会を宣言し、定款第19条の規定により、上記のとおり、定足数に足る代議員の出席があったので、本社員総会は適法に成立した旨を報告し、議事に入った。

ついで議長は、定款第21条の規定により、議事録署名人を指名したい旨を述べ、中野寧氏を選任したい旨を述べた。その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これに賛成した。

ついで議長は、定款第14条の規定により、以下の第1号議案から第7号議案の報告及び説明と決議を行うことを宣言した。

## 報告事項と決議事項

## 第1号議案 平成25年度事業報告の件

議長に指名された鈴木庶務委員長は、平成25年度の事業実施報告を説明し、その内容を報告した。

## 第2号議案 平成25年度決算報告・会計監査報告

議長に指名された小林和財務委員長代行の山岸事務局長は、平成25年度の決算報告書にて収支決算を報告し、高田監事から監査の

結果正鵠なることを認める監査報告があり、その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

## 第3号議案 画像関連学会連合会設立の件

議長に指名された中野総務担当副会長は、画像関連学会連合会設立趣旨書を説明し、その内容を報告した。

## 第4号議案 平成26年度事業計画案の件

議長に指名された鈴木庶務委員長は、平成26年度の事業計画案を説明し、その内容を報告した。

## 第5号議案 平成26年度収支予算案の件

議長に指名された甲田財務委員長代行の山岸事務局長は、平成26年度収支予算書にて、平成26年度収支予算案を説明し、その内容を報告した。

## 第6号議案 平成25年度役員等の選任

議長は、定款第23条の規定により、平成26年度の改選役員候補の理事及び監事案の議事を行うことを宣言し、議長に指名された小林裕選考委員長は、平成26年度の改選役員候補の理事及び監事案を説明し、その改選を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

新任理事 岩崎 仁, 山口孝子, 吉田哲夫, 吉田英明

再任理事 甲田謙一, 小林和久, 鈴木博文, 山田勝実

再任監事 高田俊二

## 第5号議案 会員の除名

議長は、定款第11条の規定により、15名の会員資格を喪失する事を説明し、その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これを承認可決した。

以上をもって本総会における報告及び全議案の審議を終了したので、議長は午前9時50分に閉会を宣した。

上記議事の経過及びその結果を明確にするため本議事録を作成し、定款21条により、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

平成26年5月27日  
一般社団法人 日本写真学会 第3回定時社員総会  
議 長 小林 裕幸 (法人実印)  
議事録署名人 中野 寧 ( 印 )

【第2号議案】平成25年度決算報告並びに会計監査報告

貸借対照表  
平成26年3月31日現在

				(単位:円)		
科 目	当年度	前年度	増 減			
I 資産の部						
1. 流動資産						
現金預金	7,557,835	2,423,821	5,134,014			
未収金	891,500	1,064,000	△ 172,500			
前払金	0	2,100	△ 2,100			
仮払金	0	19,346	△ 19,346			
流動資産合計	8,449,335	3,509,267	4,940,068			
2. 固定資産						
(1) 基本財産						
定期預金	27,000,000	27,000,000	0			
普通預金	0	8,000,000	△ 8,000,000			
基本財産合計	27,000,000	35,000,000	△ 8,000,000			
(2) 特定資産						
普通預金	7,009,622	8,010,414	△ 1,000,792			
特定資産合計	7,009,622	8,010,414	△ 1,000,792			
(3) その他固定資産						
電話加入権	74,984	74,984	0			
ソフトウェア	29,750	50,750	△ 21,000			
イベント登録プログラム	84,000	115,500	△ 31,500			
その他固定資産合計	188,734	241,234	△ 52,500			
固定資産合計	34,198,356	43,251,648	△ 9,053,292			
資産合計	42,647,691	46,760,915	△ 4,113,224			
II 負債の部						
1. 流動負債						
未払金	1,308,505	465,455	843,050			
前受金	47,000	47,000	0			
預り金	113,643	165,040	△ 51,397			
前受金	817,000	433,000	384,000			
流動負債合計	2,286,148	1,110,495	1,175,653			
負債合計	2,286,148	1,110,495	1,175,653			
III 正味財産の部						
1. 指定正味財産						
指定正味財産合計	0	0	0			
(うち特定資産への充当額)	( 8,010,414)	( 8,010,414)	( 0)			
2. 一般正味財産						
一般正味財産合計	40,361,543	45,650,420	△ 5,288,877			
(うち基本財産への充当額)	( 35,000,000)	( 35,000,000)	( 0)			
正味財産合計	40,361,543	45,650,420	△ 5,288,877			
負債及び正味財産合計	42,647,691	46,760,915	△ 4,113,224			

正味財産増減計算書  
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

				(単位:円)		
科 目	当年度	前年度	増 減			
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用利益	[ 3,592]	[ 40,068]	[ △ 36,476]			
基本財産受取利息	3,592	40,068	△ 36,476			
受取利息	[ 9,912,750]	[ 9,812,650]	[ 100,100]			
正会員受取会費	5,368,750	5,076,650	292,100			
賛助会員受取会費	4,544,000	4,736,000	△ 192,000			
事業収益	[ 3,961,862]	[ 4,965,143]	[ △ 1,003,281]			
講演・研究事業収入	3,961,862	4,965,143	△ 1,003,281			
受取寄付金	[ 400,000]	[ 500,000]	[ △ 100,000]			
受取寄付金	400,000	500,000	△ 100,000			
雑収入	[ 2,118,546]	[ 1,318,032]	[ 800,514]			
受取利息	8,540	41,886	△ 33,346			
広告費	409,500	414,750	△ 5,250			
別刷・投稿料代	1,090,740	535,920	554,820			
雑収入	609,766	325,476	284,290			
経常収益計	16,396,750	16,635,893	△ 239,143			
(2) 経常費用						
事業費	[ 10,608,068]	[ 10,827,678]	[ △ 219,610]			
学会誌等刊行事業費	( 5,220,141)	( 4,868,436)	( 351,705)			
事務員給与	21,000	60,500	△ 39,500			
学会誌送付	348,570	303,201	45,369			
文通費	0	6,000	△ 6,000			
印刷製本費	4,507,139	4,204,095	303,044			
雑費	70,122	2,890	67,232			
原稿費	4,000	74,000	△ 70,000			
J-S T A G E 編集費	246,750	204,750	42,000			
審査校正料	22,560	13,000	9,560			
講演研究事業費(1)	( 2,442,891)	( 2,950,952)	( 508,061)			
給送料	216,500	199,000	17,500			
旅費交通費	397,950	74,750	323,200			
会場費	129,584	214,784	△ 85,200			
通信運搬費	31,782	27,540	4,242			
会議費	184,980	186,305	△ 1,325			
消耗品費	0	9,618	△ 9,618			
諸謝金	547,047	594,431	△ 47,384			
印刷製本費	243,075	445,606	△ 202,531			
雑費	52,073	286,098	△ 234,025			
参加者会合費	639,900	912,820	△ 272,920			
講演研究事業費(2)	( 630,520)	( 666,113)	( 35,593)			
給送料	25,000	7,000	18,000			
参加者会合費	27,348	28,650	△ 1,302			
旅費交通費	100,920	122,400	△ 21,480			
会場費	43,900	8,800	35,100			
通信運搬費	164,765	151,055	13,710			
会議費	20,877	65,580	△ 44,703			
消耗品費	4,374	0	4,374			
諸謝金	183,414	161,183	22,231			
印刷製本費	48,825	1,300	47,525			
雑費	11,097	120,145	△ 109,048			
奨励助成事業金	( 1,651,246)	( 1,755,837)	( 104,591)			
奨励助成金	1,651,246	1,755,837	△ 104,591			

科 目	当年度	前年度	増 減
給送料	362,953	448,670	△ 85,717
旅費交通費	45,414	56,886	△ 11,472
租税公課	81	3,409	△ 3,328
福利厚生費	61,640	73,821	△ 12,181
諸謝金	193,182	0	193,182
雑費	0	3,554	△ 3,554
管理費	[ 11,077,579]	[ 11,670,420]	[ △ 592,841]
給送料	( 5,136,327)	( 6,349,340)	( 1,213,013)
事務員給与	5,136,327	5,094,932	41,395
臨時雇用賃金	0	1,254,408	△ 1,254,408
会費負担金	132,500	119,100	13,400
旅費交通費	( 1,100,796)	( 1,253,434)	( 152,638)
事務員交通費	645,016	806,914	△ 161,898
役員交通費	455,780	446,520	9,260
減価償却費	52,500	52,500	0
維持修繕費	0	24,240	△ 24,240
通信運搬費	343,423	354,120	△ 10,697
租税公課	72,369	83,353	△ 10,984
会議費	0	8,000	△ 8,000
消耗品費	108,603	110,370	△ 1,767
福利厚生費	( 872,305)	( 1,044,686)	( 172,381)
法定福利費	872,305	1,044,686	△ 172,381
貸借料	123,480	123,480	0
諸謝金	2,733,812	1,621,955	1,111,857
印刷製本費	51,640	173,129	△ 121,489
事務所維持管理費	200,000	200,000	0
雑費	149,824	152,713	△ 2,889
経常費用計	21,685,647	22,498,098	△ 812,451
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 5,288,897	△ 5,862,205	573,308
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 5,288,897	△ 5,862,205	573,308
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産減損損失	[ 0]	[ 1,104]	[ △ 1,104]
経常外費用計	0	1,104	△ 1,104
当期経常外増減額	0	1,104	△ 1,104
他会計振替額	[ △ 20]	[ 0]	[ △ 20]
当期一般正味財産増減額	△ 5,288,877	△ 5,863,309	574,432
一般正味財産期首残高	45,650,420	51,513,729	△ 5,863,309
一般正味財産期末残高	40,361,543	45,650,420	△ 5,288,877
III 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	40,361,543	45,650,420	△ 5,288,877

予算対比正味財産増減計算書  
平成25年 4月 1日から平成26年 3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異
(単位:円)			
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 50,000]	[ 3,592]	[ 46,408]
基本財産受取利息	50,000	3,592	46,408
受取会費	[ 11,500,000]	[ 9,912,750]	[ 1,587,250]
正会員受取会費	6,500,000	5,368,750	1,131,250
賛助会員受取会費	5,000,000	4,544,000	456,000
事業収益	[ 6,578,900]	[ 3,961,862]	[ 2,617,038]
講演・研究事業収入	6,578,900	3,961,862	2,617,038
受取寄付金	[ 400,000]	[ 400,000]	[ 0]
受取利息	400,000	400,000	0
雑収入	[ 1,700,000]	[ 2,118,546]	[ 418,546]
受取利息	20,000	8,540	11,460
広告費	615,000	409,500	205,500
別刷・投植料代	665,000	1,090,740	425,740
雑収益	400,000	609,766	209,766
経常収益計	20,228,900	16,396,750	3,832,150
(2) 経常費用			
事業費	[ 11,074,300]	[ 10,608,068]	[ 466,232]
学会誌等刊行事業費	( 4,750,000)	( 5,220,141)	( 470,141)
事務員給与	60,000	21,000	39,000
学会誌送付費	350,000	348,570	1,430
印刷製本費	4,000,000	4,507,139	507,139
雑費	10,000	70,122	60,122
原稿費	60,000	4,000	56,000
J-STAGE編集費	250,000	246,750	3,250
審査校正料	20,000	22,560	2,560
講演研究事業費(1)	( 3,530,500)	( 2,442,891)	( 1,087,609)
給料手当	264,500	216,500	48,000
旅費交通費	536,000	397,950	138,050
会場費	270,000	140,416	129,584
通信運搬費	55,000	31,782	23,218
会議費	199,000	184,980	14,020
消耗品費	5,000	0	5,000
諸謝金	795,500	547,047	248,453
印刷製本費	517,500	243,075	274,425
雑費	108,000	52,073	55,927
参加者会費	780,000	639,900	140,100
講演研究事業費(2)	( 995,000)	( 630,520)	( 364,480)
給料手当	0	25,000	25,000
参加者会費	40,000	27,348	12,652
旅費交通費	280,000	100,920	179,080
会場費	60,000	43,900	16,100
通信運搬費	115,000	164,765	49,765
会議費	110,000	20,877	89,123
消耗品費	10,000	4,374	5,626
諸謝金	225,000	183,414	41,586
印刷製本費	25,000	48,825	23,825
雑費	130,000	11,097	118,903
奨励助成事業	( 1,350,000)	( 1,651,246)	( 301,246)
奨励助成費	1,350,000	1,651,246	301,246
給料手当	363,000	362,953	47

科 目	予算額	決算額	差 異
旅費交通費	39,600	45,414	5,814
租税公課	0	81	81
福利厚生費	46,200	61,640	15,440
諸謝金	0	193,182	193,182
管理費	[ 10,438,200]	[ 11,077,579]	[ 639,379]
給料手当	( 5,137,000)	( 5,136,327)	( 673)
事務員給与	5,137,000	5,136,327	673
会費負担金	100,000	132,500	32,500
旅費交通費	( 1,110,400)	( 1,100,796)	( 9,604)
事務員交通費	560,400	645,016	84,616
役員交通費	550,000	455,780	94,220
減価償却費	0	52,500	52,500
維持修繕費	100,000	0	100,000
通信費	400,000	343,423	56,577
租税公課	100,000	72,369	27,631
会議費	20,000	0	20,000
消耗品費	300,000	108,603	191,397
福利厚生費	( 653,800)	( 872,305)	( 218,505)
法定福利費	653,800	872,305	218,505
貸借料	20,000	123,480	103,480
印刷製本費	1,847,000	2,733,812	886,812
印製費	150,000	51,640	98,360
事務所維持管理費	200,000	200,000	0
雑費	300,000	149,824	150,176
経常費用計	21,512,500	21,685,647	173,147
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,283,600	△ 5,288,897	4,005,297
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,283,600	△ 5,288,897	4,005,297
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	[ 0]	[ 20]	[ 20]
当期一般正味財産増減額	△ 1,283,600	△ 5,288,877	4,005,277
一般正味財産期首残高	0	45,650,420	45,650,420
一般正味財産期末残高	△ 1,283,600	40,361,543	△ 41,645,143
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 1,283,600	40,361,543	△ 41,645,143

会計別正味財産増減計算書 (税込・発生)

平成25年 4月 1日から平成26年 3月31日まで

科 目	コード	実施事業会計	その他会計	法人会計	合 計
(単位:円)					
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	501	[ 0]	[ 0]	[ 3,592]	[ 3,592]
基本財産受取利息		0	0	3,592	3,592
受取会費	515	[ 0]	[ 0]	[ 9,912,750]	[ 9,912,750]
正会員受取会費		0	0	5,368,750	5,368,750
賛助会員受取会費		0	0	4,544,000	4,544,000
事業収益	521	[ 0]	[ 0]	[ 3,961,862]	[ 3,961,862]
講演・研究事業		0	0	3,961,862	3,961,862
受取寄付金	535	[ 0]	[ 0]	[ 400,000]	[ 400,000]
受取利息		0	0	400,000	400,000
雑収入	541	[ 1,605,308]	[ 68,484]	[ 444,754]	[ 2,118,546]
受取利息		400	0	8,540	8,540
広告費		367,500	0	42,000	409,500
別刷・投植料代		1,019,340	0	71,400	1,090,740
雑収益		218,068	68,484	323,214	609,766
経常収益計		1,605,308	4,030,346	10,761,096	16,396,750
(2) 経常費用					
事業費	611	[ 5,320,705]	[ 5,287,363]	[ 0]	[ 10,608,068]
学会誌等刊行事業費		( 5,220,141)	( 0)	( 0)	( 5,220,141)
事務員給与		21,000	0	0	21,000
学会誌送付費		348,570	0	0	348,570
印刷製本費		4,507,139	0	0	4,507,139
雑費		70,122	0	0	70,122
原稿費		4,000	0	0	4,000
J-STAGE編集費		246,750	0	0	246,750
審査校正料		22,560	0	0	22,560
講演研究事業費		( 0)	( 2,442,891)	( 0)	( 2,442,891)
給料手当		216,500	0	0	216,500
旅費交通費		397,950	0	0	397,950
会場費		129,584	0	0	129,584
通信運搬費		31,782	0	0	31,782
会議費		184,980	0	0	184,980
諸謝金		547,047	0	0	547,047
印刷製本費		243,075	0	0	243,075
雑費		52,073	0	0	52,073
参加者会費		639,900	0	0	639,900
講演研究事業費		( 0)	( 630,520)	( 0)	( 630,520)
給料手当		25,000	0	0	25,000
参加者会費		27,348	0	0	27,348
旅費交通費		100,920	0	0	100,920
会場費		43,900	0	0	43,900
通信運搬費		164,765	0	0	164,765
会議費		20,877	0	0	20,877
消耗品費		4,374	0	0	4,374
諸謝金		183,414	0	0	183,414
印刷製本費		48,825	0	0	48,825
雑費		11,097	0	0	11,097
奨励助成事業		( 0)	( 1,651,246)	( 0)	( 1,651,246)
奨励助成費		54,993	307,960	0	362,953
給料手当		6,881	38,533	0	45,414
旅費交通費		81	0	0	81
租税公課		0	0	0	0
福利厚生費		9,339	52,301	0	61,640

会計別正味財産増減計算書 (税込・発生)

平成25年 4月 1日から平成26年 3月31日まで

科 目	コード	実施事業会計	その他会計	法人会計	合 計
諸謝金		29,270	163,912	0	193,182
管理費	621	[ 0]	[ 0]	[ 11,077,579]	[ 11,077,579]
給料手当		( 0)	( 0)	( 5,136,327)	( 5,136,327)
事務員給与		0	0	5,136,327	5,136,327
会費負担金		0	0	132,500	132,500
旅費交通費		( 0)	( 0)	( 1,100,796)	( 1,100,796)
事務員交通費		0	0	645,016	645,016
役員交通費		0	0	455,780	455,780
減価償却費		0	0	52,500	52,500
通信運搬費		0	0	343,423	343,423
租税公課		0	0	72,369	72,369
消耗品費		0	0	108,603	108,603
福利厚生費		( 0)	( 0)	( 872,305)	( 872,305)
法定福利費		0	0	872,305	872,305
貸借料		0	0	123,480	123,480
諸謝金		0	0	2,733,812	2,733,812
印刷製本費		0	0	51,640	51,640
事務所維持管理費		0	0	200,000	200,000
雑費		0	0	149,824	149,824
経常費用計		5,320,705	5,287,363	11,077,579	21,685,647
評価損益等調整前当期増減額		-3,715,397	-1,257,017	-316,483	-5,288,897
評価損益等計		0	0	0	0
当期経常増減額		-3,715,397	-1,257,017	-316,483	-5,288,897
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計		0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計		0	0	0	0
当期経常外増減額		0	0	0	0
他会計振替額	650	[ -6,396,460]	[ -1,893,616]	[ 8,290,056]	[ -20]
当期一般正味財産増減額		2,681,063	636,599	-8,606,539	-5,288,877
一般正味財産期首残高		0	0	0	0
一般正味財産期末残高		2,681,063	636,599	-8,606,539	-5,288,877
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額		0	0	0	0
指定正味財産期首残高		0	0	0	0
指定正味財産期末残高		0	0	0	0
III 正味財産期末残高		2,681,063	636,599	-8,606,539	-5,288,877

収支計算書

平成25年 4月 1日から平成26年 3月31日まで

財務諸表に対する注記

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用取利息	[ 50,000 ]	[ 2,874 ]	[ 47,126 ]
基本財産受取利息	[ 50,000 ]	[ 2,874 ]	[ 47,126 ]
会費	[ 11,500,000 ]	[ 9,912,750 ]	[ 1,587,250 ]
正会員受取会費	[ 6,500,000 ]	[ 5,368,750 ]	[ 1,131,250 ]
賛助会員受取会費	[ 5,000,000 ]	[ 4,544,000 ]	[ 456,000 ]
講演・研究事業収入	[ 6,578,900 ]	[ 3,961,862 ]	[ 2,617,038 ]
講演付金取収入	[ 400,000 ]	[ 400,000 ]	[ 0 ]
雑収入	[ 1,700,000 ]	[ 2,114,982 ]	[ 414,982 ]
受取利息	[ 20,000 ]	[ 4,976 ]	[ 15,024 ]
広告費	[ 615,000 ]	[ 409,500 ]	[ 205,500 ]
別刷・投稿料代	[ 665,000 ]	[ 1,090,740 ]	[ 425,740 ]
雑収入	[ 400,000 ]	[ 609,766 ]	[ 209,766 ]
事業活動収入計	20,228,900	16,392,468	3,836,432
2. 事業活動支出			
事業費	[ 11,074,300 ]	[ 10,107,147 ]	[ 967,153 ]
学術誌等刊行事業費	( 4,750,000 )	( 5,220,141 )	( 470,141 )
事務員給与	[ 60,000 ]	[ 21,000 ]	[ 39,000 ]
学術誌送付費	[ 350,000 ]	[ 348,570 ]	[ 1,430 ]
印刷製本費	[ 4,000,000 ]	[ 4,507,139 ]	[ 507,139 ]
雑費	[ 10,000 ]	[ 70,122 ]	[ 60,122 ]
原稿	[ 60,000 ]	[ 4,000 ]	[ 56,000 ]
J-S-T-A-G-E編集料	[ 250,000 ]	[ 246,750 ]	[ 3,250 ]
審査校正費	[ 20,000 ]	[ 22,560 ]	[ 2,560 ]
講演研究事業費(1)	( 3,530,500 )	( 2,442,891 )	( 1,087,609 )
給料	[ 264,500 ]	[ 216,500 ]	[ 48,000 ]
旅費	[ 536,000 ]	[ 397,950 ]	[ 138,050 ]
会場交通費	[ 270,000 ]	[ 129,584 ]	[ 140,416 ]
通信運搬費	[ 55,000 ]	[ 31,782 ]	[ 23,218 ]
会議費	[ 199,000 ]	[ 184,980 ]	[ 14,020 ]
消耗品	[ 5,000 ]	[ 0 ]	[ 5,000 ]
諸謝金	[ 795,500 ]	[ 547,047 ]	[ 248,453 ]
印刷製本費	[ 517,500 ]	[ 243,075 ]	[ 274,425 ]
雑費	[ 108,000 ]	[ 52,073 ]	[ 55,927 ]
参研究者会費	[ 780,000 ]	[ 639,900 ]	[ 140,100 ]
講演研究事業費(2)	( 995,000 )	( 630,520 )	( 364,480 )
給料	[ 0 ]	[ 25,000 ]	[ 25,000 ]
参加会費	[ 40,000 ]	[ 27,348 ]	[ 12,652 ]
旅費	[ 280,000 ]	[ 100,920 ]	[ 179,080 ]
会場交通費	[ 60,000 ]	[ 43,900 ]	[ 16,100 ]
通信運搬費	[ 115,000 ]	[ 164,765 ]	[ 49,765 ]
会議費	[ 110,000 ]	[ 20,877 ]	[ 89,123 ]
消耗品	[ 10,000 ]	[ 4,374 ]	[ 5,626 ]
諸謝金	[ 225,000 ]	[ 183,414 ]	[ 41,586 ]
印刷製本費	[ 25,000 ]	[ 48,825 ]	[ 23,825 ]
雑費	[ 130,000 ]	[ 11,097 ]	[ 118,903 ]
奨励助成事業金	( 1,350,000 )	( 1,150,406 )	( 199,594 )
奨励助成	[ 1,350,000 ]	[ 1,150,406 ]	[ 199,594 ]
給料	[ 363,000 ]	[ 362,953 ]	[ 47 ]
旅費	[ 39,600 ]	[ 45,414 ]	[ 5,814 ]
福利厚生費	[ 46,200 ]	[ 61,640 ]	[ 15,440 ]

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法  
ソフトウェアの減価償却方法は5年に基づく定額法による。
- (2) リース取引の処理方法  
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理による。
- (3) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	35,000,000	0	8,000,000	27,000,000
普通預金	0	8,000,000	0	8,000,000
小計	35,000,000	8,000,000	16,000,000	27,000,000
特定資産				
普通預金	8,010,414	1,833	1,002,625	7,009,622
小計	8,010,414	1,833	1,002,625	7,009,622
合計	43,010,414	8,001,833	17,002,625	34,009,622

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	27,000,000		( 27,000,000 )	-
普通預金	27,000,000	0	27,000,000	0
小計	27,000,000	0	27,000,000	0
特定資産				
普通預金	7,009,622	( 7,009,622 )		-
小計	7,009,622	( 7,009,622 )		-
合計	34,009,622	( 7,009,622 )	( 27,000,000 )	-

4-1. 固定資産の取得価額、増減、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他固定資産			
ソフトウェア	105,000	75,250	29,750
イベント欄登録プログラム	157,500	73,500	84,000
合計	262,500	148,750	113,750

4-2. 固定資産の増減額及び当期末残高は次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
その他固定資産				
ソフトウェア	50,750		21,000	29,750
イベント欄登録プログラム	115,500		31,500	84,000
合計	166,250	0	52,500	113,750

科 目	予算額	決算額	差 異
諸謝金	0	193,182	△ 193,182
管理費	[ 10,438,200 ]	[ 11,020,926 ]	[ 582,726 ]
給料	( 5,137,000 )	( 5,136,327 )	( 673 )
事務員給与	[ 5,137,000 ]	[ 5,136,327 ]	[ 673 ]
会費負担金	[ 100,000 ]	[ 132,500 ]	[ 32,500 ]
旅費	( 1,110,400 )	( 1,100,796 )	( 9,604 )
事務員交通費	[ 560,400 ]	[ 645,016 ]	[ 84,616 ]
役員交通費	[ 550,000 ]	[ 455,780 ]	[ 94,220 ]
維持修繕費	[ 100,000 ]	[ 0 ]	[ 100,000 ]
通信運搬費	[ 400,000 ]	[ 343,423 ]	[ 56,577 ]
租税公課	[ 100,000 ]	[ 70,001 ]	[ 29,999 ]
会議費	[ 20,000 ]	[ 20,000 ]	[ 0 ]
消耗品	[ 300,000 ]	[ 108,603 ]	[ 191,397 ]
福利厚生費	[ 653,800 ]	[ 872,305 ]	[ 218,505 ]
貸借料	[ 20,000 ]	[ 123,480 ]	[ 103,480 ]
諸謝金	[ 1,847,000 ]	[ 2,733,812 ]	[ 886,812 ]
印刷製本費	[ 150,000 ]	[ 51,640 ]	[ 98,360 ]
事務所維持管理費	[ 200,000 ]	[ 200,000 ]	[ 0 ]
雑費	[ 300,000 ]	[ 148,039 ]	[ 151,961 ]
事業活動支出計	21,512,500	21,128,073	384,427
事業活動収支差額	△ 1,283,600	△ 4,735,605	3,452,005
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
基本財産取崩収入	[ 0 ]	[ 8,000,000 ]	[ 8,000,000 ]
特定資産取崩収入	[ 0 ]	[ 500,000 ]	[ 500,000 ]
投資活動収入計	0	8,500,000	8,500,000
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	8,500,000	8,500,000
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
他会計振替収入	[ 0 ]	[ 20 ]	[ 20 ]
財務活動収入計	0	20	20
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	20	20
当期収支差額	△ 1,283,600	3,764,415	5,048,015
前期繰越収支差額	0	2,398,772	2,398,772
次期繰越収支差額	△ 1,283,600	6,163,187	7,446,787

財産目録

平成26年3月31日現在

一般社団法人 日本写真学会

Table with columns: 貸借対照表科目, 場所・物量等, 使用目的等, 金額. Includes sections for 流動資産, 固定資産, and 流動負債.

【第5号議案】平成26年度収支予算案

収支予算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

Table with columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 増減. Detailed breakdown of income and expenses for the fiscal year.

平成25年度監査報告

一般社団法人 日本写真学会
会長 小林 裕幸 殿

私たち監事は、当協会の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの平成25年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律9条第1項（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律197条において準用する同法第9条第1項）及び一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第36条及び第45条（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第64条において準用する同規則第36条及び第45条）の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、当協会の主たる事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当協会の状況を正しく示しているものと認めます。
② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当協会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成26年4月16日

監事 三宅 洋一
監事 高田 俊二

Table with columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 増減. Detailed breakdown of income and expenses for the fiscal year.